

東経連ビジネスセンター

2019 年度事業報告

東経連ビジネスセンターは（一社）東北経済連合会（以下、「東経連」）が取りまとめた新ビジョン「わきたつ東北」の重点戦略の一つ「稼ぐ力を高める」を最前線で実践する組織として、東北の産学官金の共創のもと、支援活動に取り組んでいる。

新しい支援基準に基づき、個社支援に終始することなく、地域に波及効果をもたらし、付加価値の高い産業構造の転換に資する可能性のある事業に支援を行った。これにより、売上高を大きく伸ばすだけでなく、地域に波及効果をもたらした事例を創出した。

また、2019 年度は活動期間（2016～2020 年度の 5 年間）の仕上げに向けた 1 年間と位置づけ、以下の通り、4 つの重点事業それぞれの取組みを引き続き強力に展開した。併せて、これまでの支援の成果や課題等を改めて検証しながら、次期構想の検討にも取り組んだ。

■ 重点事業 1：『ILC・加速器産業参入支援事業』

加速器関連産業への参入促進に向けて、加速器のモジュールやユニットを開発・製造するための企業連携・グループ化の創出・支援に取り組んだ。

また、中小企業等による次世代放射光施設の利活用促進を目的とした「ものづくりフレンドリーバンク」については、任意団体として独立させ、コアリションメンバーに 1 口加入し、次世代放射光施設の利用枠を 10 年間にわたり年間 200 時間確保した。

■ 重点事業 2：『産学・企業間連携支援事業』

「東北産学官金サロン」を契機とした「航空宇宙産業」への参入支援に努め、2019 年 8 月開催のサロンではパリエアショー2019 出展の成果報告及び大手航空機関連企業の技術者による加工技術や参入に関する講演を実施した。

産学連携、産産連携による共同開発を支援する「新事業開発・アライアンス助成事業」については、新規に採択した事業は 3 件となった。

■ 重点事業 3：『マーケティング・成長戦略支援事業』

地方銀行（スポンサー）との企業相談会の共催などにより事業発掘に努めた結果、新規に採択した企業は 3 件となった。なお、2019 年度に支援を終了した支援企業については、売上高を大きく伸ばすだけでなく、地域の他企業の取引拡大にもつながる地域に波及効果をもたらす支援をすることもできた。

また、東北大学ベンチャーパートナーズ(株)と協力協定を締結し、大学発ベンチャーの支援のあり方等について検討を進めた。

■ 重点事業 4：『セールス・マッチング支援事業』

各県の支援専門家との情報交換会や地方銀行（スポンサー）との連携によ

り企業情報の更なる蓄積に努めた。本年度の支援が終了した案件は、利益率の高い販売先にシフトすることができた。

先端的な自動車関連産業の集積促進では、自動車完成メーカーに加えて、新たに Tier1（自動車部品メーカー）企業 3 社に対するプレゼンテーションの場づくりを行った。

航空機産業参入支援では、パリエアショー2019 に東北ブースを出展した。また、東北拠点を持つ大手航空機関連企業の協力により、技術者による工場訪問指導を行った。

以上 4 つの重点事業への取組みを通じて、支援専門家や関係諸団体とのネットワークの強化を図りつつ、共に東北地域のイノベーション・システムの構築・強化に努め、東経連新ビジョンの戦略 2「稼ぐ力を高める」の実現に向けた事業活動を展開することができた。

2019 年度の事業活動の詳細は次のとおり。

1. 支援戦略委員会の開催

(1) 支援戦略委員会の開催

新たな支援事業の採択基準（2017 年 11 月見直し）に沿って、「新事業開発・アライアンス助成事業」では 3 件、「マーケティング・成長戦略支援事業」では 3 件の合計 6 件を採択・承認した。

<会議の開催実績>

◇ 第 32 回（2019 年 6 月 11 日）
(1) 議 案：マーケティング・成長戦略支援事業 採択の件（1 件）
(2) 議 案：新事業開発・アライアンス助成事業 承認の件（1 件）
(3) 報告事項：新事業開発・アライアンス助成事業 事業終了報告（1 件）
(4) 報告事項：企業発掘に向けた取り組みについて
◇ 第 33 回（2019 年 9 月 10 日）
(1) 議 案：新事業開発・アライアンス助成事業 承認の件（2 件）
(2) 議 案：セールス・マッチング支援事業 承認の件（1 件）
(3) 報告事項：企業発掘に向けた取り組みについて
◇ 第 34 回（2019 年 12 月 10 日）
(1) 議 案：マーケティング・成長戦略支援事業 採択の件（1 件）
(2) 報告事項：新事業開発・アライアンス助成事業 事業終了報告（1 件）
(3) 報告事項：企業発掘に向けた取り組みについて
◇ 第 35 回（2020 年 3 月 10 日）
(1) 議 案：マーケティング・成長戦略支援事業 採択の件（1 件）
(2) 報告事項：企業発掘に向けた取り組みについて
(3) 報告事項：令和 2 年度 支援戦略委員会 開催日程（案）について

＜参考＞ 支援事業の対象となる具体的事業（各支援事業の募集要項より抜粋）

「雇用創出や新たに投資を誘発するなど地域経済に影響をもたらす成長事業」、「新規性など成長が見込める技術力を有する事業」、「異業種や大学などが連携して新しい価値を創出する事業」などのように、東北の「稼ぐ力を高める」ことに資する事業が対象となります。

具体的には次の項目となります。

- ① 農林水産業や観光産業、伝統産業等が東北域内で連携し、地域発のブランドとして魅力を発信する事業
- ② 新規性や優位性の高い商品や技術開発力を有するものづくり事業
- ③ 東北の産業が域内外異業種等と連携し、新たな価値を創出する事業
- ④ 大学等の研究シーズを活かし、新たな価値を創出する事業
- ⑤ ILC、加速器関連プロジェクトに関する要素技術の開発に貢献する事業
- ⑥ 自動車、航空宇宙産業等のものづくり技術の進化に貢献する事業

2. ILC・加速器産業参入支援事業

(1) 加速器関連産業の育成・集積に向けた支援事業

加速器関連産業への参入促進に向けて、加速器関連産業集積連絡会の登録企業（約 130 社）を中心に、加速器のモジュールやユニットを開発・製造するための企業連携・グループ化を図り、より付加価値の高いマッチング事例の創出に努めた。

① 東北地域の企業の加速器関連技術開発に関する取組支援

ILC を契機とした地域におけるイノベーションの創出事例を PR することを目的に、これまで立ち上げた産学・産産連携開発の実例を紹介する記者説明会を開催した（6 月）。

また、加速器関連の技術習得に向けた支援を目的に、34 名の参加を得て、兵庫県の大型放射光施設である「SPring-8」の視察会を開催（12 月）した。

なお、研究者や企業同士の交流を通じた新たな企業連携によるイノベーションの創出を目的に、「ILC セミナー」および「加速器連絡会と加速器コーディネーターチームとの合同会議」を 3 月に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

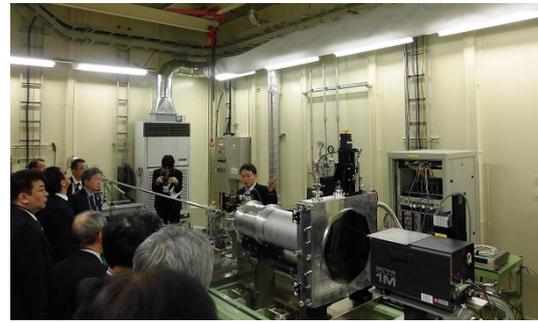
<記者説明会におけるプレゼン企業およびテーマ>

企 業	東杜シーテック（株）（宮城県）
テ ー マ	ILC 超伝導加速空洞内面画像検査装置の開発
企 業	東日本機電開発（株）、（株）WING（岩手県）
テ ー マ	超伝導加速空洞用縦型電解研磨装置の開発
企 業	秋田化学工業（株）（秋田県）
テ ー マ	ILC 超伝導加速空洞カプラー鍍金技術の開発

<「SPring-8 視察会」の様子>



加速器トンネル内



実験ステーション

② 加速器関連のマッチング支援

加速器関連の技術支援やマッチング支援をスムーズに行うため、加速器関連産業集積連絡会の中に、加速器の要素技術となる 9 テーマに分類したコア企業群（45 社）を新たに構築し、Tier1 企業への PR を行った。

また、直線型加速器の国際会議である LCWS2019（Linear Collider Workshop：10 月 28 日～11 月 1 日：仙台国際センター）に合わせて開催された企業展示会（10 月 28 日、29 日）において、東経連ビジネスセンターが事務局業務を全面的に担った。東北企業も含め、国内外から 55 社・57 ブースが出展（加えて行政・諸団体が 5 団体・8 ブース出展）し、LCWS に参加している国内外研究者に技術力をアピールする機会となるとともに、出展企業同士の新たな連携の促進にも寄与する場となった。

(2) ILC ホスピタリティ・プロジェクト

LCWS2019 の開催に合わせ、海外の ILC 研究者をターゲットとした東北の食と観光のプロモーションについて、東北 ILC 推進協議会に協力した。

<協力事業>

- ・ LCWS2019 企業展示会における、東北の食と観光に係るブース出展（10 月 28 日、29 日）

- ・海外研究者を対象としたエクスカージョン（東北の食と観光に係るグループインタビューを含む）の実施（11月2日：Modern TOHOKU コース、Vintage MIYAGI コース）
- ・上越ケーブルビジョン主催「JCV ビジネスセミナー」における講演（2月4日：新潟県上越市）

(3) 中小企業等による次世代放射光施設の利活用促進事業

2019年9月に「ものづくりフレンドリーバンク」を任意団体として独立させ、(一財)光科学イノベーションセンターに5,000万円を拠出した。コアリションメンバーとして1口加入し年間200時間×10年間の次世代放射光施設の利用枠を確保した。

また、青森県、秋田県、山形県を中心に、説明会・周知活動を継続し、賛同・参画企業の積上げ（目標：累計コアリション2口（1億円））に取り組んだ結果、2020年3月末時点で加入企業59社（163口／1口・50万円）となった。

※セミナー・EBISワークショップ等

日時・会場	2019年7月9日（火） 14：00～16：00 @秋田市文化会館
説明	次世代放射光施設セミナー「次世代放射光を学ぶ」 (一財)光科学イノベーションセンター理事長 高田昌樹
日時・会場	2020年1月27日（月） 14：00～16：00 @山形県工業技術センター
説明	EBIS ワークショップ in 山形 「わが社で使える放射光」 (一財)光科学イノベーションセンター理事長 高田昌樹
日時・会場	2020年2月14日（金） 14：00～16：00 @八戸プラザホテル
説明	EBIS ワークショップ in 八戸 「わが社で使える放射光」 (一財)光科学イノベーションセンター理事長 高田昌樹
日時・会場	2020年2月26日（水） 14：00～16：00 @ホテルメトロポリタン秋田
説明	EBIS ワークショップ in 秋田 「わが社で使える放射光」 (一財)光科学イノベーションセンター理事長 高田昌樹

※EBIS (Expanding Bussiness Innovation for executiveS) ワークショップ：産総研東北センターを中心としたプロジェクト。産学官金の“協奏”により東北地域発の新産業創出を目指す「TAI プロジェクト」の中核事業であり、中堅・中小企業を対象とした、先進・先端技術に触れることができるカジュアルな少人数制の勉強会を開催している。

《成果・反省を踏まえた今後の方向性》

1. ILC の日本誘致に向けた動向や次世代放射光施設の建設状況等も踏まえ、2019 年度までに立上げたグループに対するサポートを行うとともに、引き続き、東北企業の加速器関連産業への参入を促すため、関係機関と連携しながら加速器の要素技術に関する説明会や視察会の開催に協力・支援していくことが必要である。
2. 「ものづくりフレンドリーバンク」は、(一財)光科学イノベーションセンターとの連携を一層強化し、秋田県、山形県に加え、福島県、新潟県等での説明会・周知活動の機会を創出するとともに、財団の協力を得ながら加入者拡大のための活動を継続することが必要である。

3. 産学・企業間連携支援事業

(1) 大学等研究機関のシーズと地場産業、地場産業同士を結び新たな価値を創生する場づくり（東北産学官金サロンの開催）

東経連ビジョン「わきたつ東北」の重点事業に掲げる「航空宇宙産業」と「食の高付加価値化」を継続テーマとして取り上げ深掘りした。また支援専門家によるフォローアップを行い、具体的な成果に繋げるように努めた。

① 航空宇宙産業

2019年6月17日から23日まで、東北企業・関係機関と共にパリエアショー2019に出展し、8月29日に開催した「東北産学官金サロン」にて成果報告を行った。参加企業数社から、継続的な海外展示会出展支援の要望があり、再度の海外展示会出展支援に向け情報収集を継続した。

また「東北産学官金サロン」では(株)IHIの元技監・落合宏行氏による「ジェットエンジン部品製造に参入するための留意事項 および関連技術紹介」をテーマに基調講演を実施いただいた。その後、参加企業からの要請により、落合氏による工場訪問指導を実施した。

② 食の高付加価値化

地域ブランドの確立・支援に資するパイロット事業として、2020年2月7日に東北の製麺業3社の女性経営者が集まり、ブランド戦略専門家を交えた地域ブランド構築に向けたミーティングを開催した。その中で、東北の麺の認知度を高めるための課題や取り組むべき方向性等に関する議論を行った。

<開催概要>

日時・会場	2020年2月7日（金）16：00～17：30 @東経連10階会議室
説明	「麺から考える地域ブランド構築のヒント」 日本ブランドアソシエイツ（株）代表取締役 豊隅 優

③ その他

産総研東北センターと共同で「燃料電池自動車が拓く水素社会」をテーマにEBISワークショップを開催した。

<開催概要>

日時・会場	2019年12月20日（金）13：00～16：00 @仙台ロイヤルパークホテル
説明	「燃料電池自動車が拓く水素社会」 FC-Cubic 専務理事（元トヨタ自動車FC部長） 大仲英巳

(2) 新事業開発・アライアンス助成事業

地域に波及効果をもたらす成長志向の高い事業を発掘するために、当初の計画通り支援専門家・スポンサー企業との連携を図った。これにより採択基準に沿った支援候補となりうる事業情報を蓄積することに繋がり、2019年度は3件が採択された。

また助成企業（期間が終了した企業も含む）に対して、他機関等の助成事業を紹介したほか、マーケティングやセールスの専門家によるアドバイス等を行い、事業化に向けたフォローを実施した。

<「産学連携タスク・チーム会議」の開催実績>

◇ 第32回（2019年5月30日）	
・ 議 案	支援候補案件について（2件）
・ 議 案	第29回タスク採択案件中間評価（1件）
・ 報告事項	第27回タスク採択案件最終報告（1件）
◇ 第33回（2019年8月27日）	
・ 議 案	支援候補案件について（2件）
◇ 第34回（2019年11月26日）	
・ 議 案	第31回タスク採択案件中間評価（4件）
・ 報告事項	第29回タスク採択案件最終報告（1件）
◇ 第35回（2020年2月25日）	
・ 議 案	支援候補案件なし
・ 報告事項	事務局からの報告

<採択事業の概要>

助 成 先	(株)きものブレイン（新潟県十日町市） ／東京農業大学／明星大学ほか
テ ー マ	みどり繭の特徴の研究と新たな活用の研究について
支 援 期 間	2019年10月～2020年9月
助 成 先	(有)アイエスエンジニアリング（岩手県盛岡市）／岩手大学
テ ー マ	潜水士の代わりに水中作業を実施可能な水中ロボットの開発
支 援 期 間	2019年10月～2020年9月
助 成 先	(株)岩手阿部製粉（岩手県花巻市）／岩手県工業技術センター
テ ー マ	冷凍団子製品の原料米粉品質管理と新規冷凍対応製品化
支 援 期 間	2019年10月～2020年9月

＜支援終了事業（2018年度採択事業）の概要＞

2019年度末時点で1件の助成が終了した。(株)エンサウンドは、音を触覚振動に変更したクッションタイプのスピーカーへの評価方法を確立し、今後、本格的な事業化に向けて取り組む予定としている。

助成先の技術課題の解決が進む一方で、マーケティングやセールス、知財戦略などの観点からの課題を抱えている場合も多いことから、当センターの特長を活かした継続的な支援も求められている。

1	(株)エンサウンド(岩手県盛岡市)/東北大学未来科学技術共同研究センター『音を触覚振動に変換した振動付きクッション型スピーカーの開発』
---	---

＜成果・反省を踏まえた今後の方向性＞

1. 「東北産学官金サロン」を通じて構築したネットワークを深化させ、国内外企業等とのマッチングに資する活動を順次展開していく必要がある。
2. 「東北麺サミット」の取組みを進化させるべく、引き続き2020年東北・新潟の情報発信拠点事業「東北ハウス」を一つの契機として、東北の麺文化の発信、ブランドの立上げに向けた検討を進めることが必要である。
3. 新事業開発・アライアンス助成事業については、引き続き、地域に波及効果をもたらす成長志向の高い事業を発掘すべく、地方銀行（スポンサー）との相談会や支援専門家との情報交換会等を通じて、連携を強化していくことが必要である。

4. マーケティング・成長戦略支援事業

(1) マーケティング・成長戦略支援事業

産学官金の連携ならびに地域に波及効果をもたらす成長志向の高い事業を発掘するため、当初の計画通り地方銀行（スポンサー）と連携した「企業相談会」を4行で計5回、企業21社を対象に実施し企業情報の蓄積に努めた。

その結果、2019年度は「マーケティング・成長戦略支援事業」で3件の採択に繋がった。また、採択に繋がる支援候補事業として2件を発掘した。

<「MGSミーティング」の開催実績：3回開催>

◇ 2019年5月21日開催
・議案：支援候補案件について（1件） ・報告事項：案件発掘活動の状況について
◇ 2019年8月20日開催
・議案：支援候補案件について（2件） ・報告事項：案件発掘活動の状況について
◇ 2020年2月18日開催
・議案：支援候補案件について（1件） ・報告事項：案件発掘活動の状況について ・報告事項：令和2年度MGSミーティング開催日程について

<支援事業の概要 No.1>

企業名	(有) 三陸とれたて市場（岩手県大船渡市）	
テーマ	「三陸の海産物の美味しさを封じ込め」安定して届ける取組み ～地域の稼ぐ力を高める付加価値型のビジネスモデルの提案～	
支援期間	2019年9月～2020年8月	

<支援事業の概要 No.2>

企業名	(株) アクトラス（秋田県横手市）	
テーマ	医理工連携プロジェクト「患者見守りシステム」の普及拡大 ～秋田県が抱える課題解決に向けた取組みから開発された新システムを全国に広める～	
支援期間	2020年2月～2021年1月	

タブレットとセットで自動通知する通信型点滴センサ

<支援事業の概要 No.3>

企業名	(株) 肉のふがね (岩手県岩手町)	 <p>地域特産「いわて短角和牛」と「のだ塩」を活用した国内初の『無添加・熟成のプレミアム和牛生ハム“セシーナ”』</p>
テーマ	希少銘柄“いわて短角牛”の高付加価値加工品によるプレミアムブランドの確立と、地域と連携した稼ぐ畜産ビジネスモデルの構築	
支援期間	2020年4月～2021年3月	

※ 同社は2020年3月開催の支援戦略委員会での採択であるため、2019年度事業として取扱う。

<支援終了事業（2018年度採択事業）の概要>

2019年度末時点で下記の1件の支援を終了した。

- ◆ (株) 空地音ハーモニーは、マーケティング・成長戦略支援事業を活用し「世界遺産を核としたプレミアム・ウェディングツーリズム『みちのく和婚®』」のコーポレート・ブランディングと連携・波及事業化」に取り組んだ。

当センターは、「都姫婚（みやびこん）」「国宝瑞巖寺と松島で叶える結婚式」「仙台神社結婚式」「伊達流茶祝言」など、バラバラに展開していたコンテンツを整理・統合し、プレミアム・ウェディング『みちのく和婚®』のトータル・ブランディングおよび施行許諾オンリーワン企業としてのコーポレート・ブランディングを支援した。

支援後の反響は大きく、挙式後には親族らとの周辺観光地や温泉地を巡る「ウェディングツーリズム」を展開し、地域波及効果に繋がった。また、寺社で式を挙げられた方は、出産前の安産祈願や出産後のお宮参り、七五三など、人生の節目ごとに利用するため、新たな利用者やリピーターの獲得にも貢献し、さらには、海外からの外国人の挙式も増え、東北のインバウンドにも大きく貢献した。その結果、これまでに手掛けた挙式は400組を超え、同社の売上げは当初目標をはるかに上回る2.5倍増となった。

『みちのく和婚®』を通じ、今後も引き続き東北の観光客誘致とさらなる地域波及効果に力を注いでいただけるものと期待している。

1	(株) 空地音ハーモニー (宮城県仙台市) 「世界遺産を核としたプレミアム・ウェディングツーリズム『みちのく和婚®』」のコーポレート・ブランディングと連携・波及事業化」
---	---

(2) 東北大学ベンチャーパートナーズ(株)との協定締結

7月30日に当センターは、東北大学ベンチャーパートナーズ(株)（以下、「THVP」）と協力協定を締結し、THVP、東北大学等と大学発ベンチャーの支援のあり方等について検討を進めた。

《成果・反省を踏まえた今後の方向性》

◎産・学・官・金の連携ならびに地域への波及効果の高い東北のものづくり企業の成長に向けて、支援専門家や地域の支援機関さらには企業の身近な存在である地方銀行（スポンサー）との連携を強化し、採択基準に合致した「光る原石」となりうる事業の発掘に努める必要がある。

5. セールス・マッチング支援事業

(1) セールス・マッチング支援事業

① 国内セールス・マッチング支援事業

地域に波及効果をもたらす成長志向の高い事業を発掘するために、各県の支援専門家との情報交換会や地方銀行（スポンサー）と連携した企業訪問活動を実施したことにより、企業情報の蓄積に繋がるとともに 2019 年度はステップアップ支援として 1 件の採択に繋がった。

<「セールス会議」の開催実績>

◇ 2019 年 8 月 20 日開催

- ・ 議 案：支援候補案件について（1 件）
- ・ 報告事項：案件発掘活動の状況について

<支援終了事業（2018 年度採択事業）の概要>

2019 年度末時点で 1 件の支援が終了した。セールスチームでは、(株) GRA に対し新たな販路の開拓、バイヤーとの契約条件の見直し、価格の再編成など、企業の高付加価値に繋がる支援を行った。

② 東北製品のマッチングサイト『東北いいネット』

東北六県商工会議所連合会が主催する個別商談会「伊達な商談会」との連携を継続し、オンライン／オフラインでの商談充実に取り組んだ。

また支援専門家等と連携した「東北いいネット」の登録促進活動を実施し、今年度メーカー 2 社・9 商材、バイヤー 3 社が新たに登録となった。

（3 月末時点で、メーカー 331 社・432 商材、バイヤー 67 社が登録）

(2) 先端的な自動車関連産業の集積促進事業

① 東北地域の車を考える会

完成車メーカーに加えて、Tier1（自動車部品メーカー）企業 3 社に対し、大学等研究機関や東北の地場企業がプレゼンテーションを行う会を 4 カ月毎に開催した（内 1 回は新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催を中止）。

終了後、企業間交流会を開催し、完成車メーカーより自動車産業に関する講演のほか、出席の支援専門家により参加企業のマッチング支援、共同開発案件発掘の支援を行った。

<「車を考える会」の開催実績>

◇ 第 36 回 (2019 年 7 月 19 日)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 部 完成車メーカー向け個別プレゼンテーション 5 社 (青森 1、秋田 1、岩手 1、宮城 1、山形 1) が実施 ・ 第 2 部 完成車メーカーの講話並びに情報交換会 55 名 (40 企業/団体等) が参加
◇ 第 37 回 (2019 年 11 月 15 日)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 部 完成車メーカー・Tier1 企業向け個別プレゼンテーション 7 社 (宮城 4、福島 1、新潟 2) が実施 ・ 第 2 部 完成車メーカーの講話並びに情報交換会 61 名 (40 企業/団体等) が参加
◇ 第 38 回 (2020 年 3 月 19 日)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開催中止

<「地域版車を考える会」の開催実績>

◇ 第 27 回 岩手県奥州市 (2019 年 6 月 21 日)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 部 完成車メーカー向け個別プレゼンテーション 5 社が実施 ・ 第 2 部 完成車メーカーの講話並びに情報交換会 57 名が参加
◇ 第 28 回 山形県米沢市 (2019 年 10 月 18 日)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 部 完成車メーカー向け個別プレゼンテーション 地場企業 2 社・山形大学 (2 件) 以上 4 件実施 ・ 第 2 部 完成車メーカーの講話並びに情報交換会 50 名が参加
◇ 第 29 回 岩手県花巻市 (2019 年 12 月 19 日) ※北東北産学連携
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 部 完成車メーカー・地元企業向けプレゼンテーション 一関工業高等専門学校・秋田大学・弘前大学 以上 3 件実施 ・ 第 2 部 完成車メーカーの講話並びに情報交換会 44 名が参加

② 次世代移動体システム事業化プロジェクトの推進支援

「東北次世代移動体システム技術実証コンソーシアム」が実施する自動運転等の実証実験として、「泉パークタウン」、「福島県浜通り」の実証実験の準備に協力した。

今後も、東北企業の参画促進を意識して協力・参加する。

(3) 航空宇宙産業への参入支援

航空機産業支援事業の中長期的な目標設定（下請けからの脱却、海外企業との取組みを見据えた企業連携によるモジュールの生産体制の構築とそのための中核企業の育成）を実施した。

具体的には、東北経済産業局・中小機構東北・JETRO・日本航空宇宙工業会等の協力を得て、パリエアショー2019（6月17日～23日）に初めて東北ブースを設置し、東北の企業・関係機関の出展を支援した。

<「パリエアショー2019」の開催実績>

開催日	2019年6月17日～23日
東北ブース内の出展企業	<ul style="list-style-type: none">・アキモク鉄工（株）・東北大学 流体科学研究所・NIIGATA SKY PROJECT・（株）遠藤製作所・本田精機（株）

なお、パリエアショー参加企業から2020年開催のフーンボロー国際航空ショー（英国）への参加希望があり、出展申込を行ったものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響から3月20日に英国の航空ショー事務局より開催中止の連絡が入った。

一方で、大手航空機関連企業との関係強化を行い、（株）IHIの元技監を支援専門家として協力いただく体制を固め、産学官金サロンで加工技術や参入に関する講演を開催した。その後、宮城県内企業5社の工場訪問、視察指導を実施した。

(4) 2020年東北・新潟の情報発信拠点事業「東北ハウス」出展準備支援

東経連や関係機関と連携し、2020年東北・新潟の情報発信拠点事業「東北ハウス」の実現に向け、支援企業の紹介を行う等の出展準備に協力した。

本事業の実施に当たっては、当センターの支援企業から、「インターネットや各種媒体を使って十分な周知活動が必要」等の意見が寄せられた。

そこで当センターは、東北の中小企業がより付加価値の高い販売活動が行えるよう、東北ハウスへの事業協力の「基本方針」を取りまとめ、東北ハウス拠点会場で行われる試食・試飲コーナーの企画演出等の催事運営面での協力及びインターネット等による各種広告宣伝等に協力した。

〈成果・反省を踏まえた今後の方向性〉

1. 東経連の新ビジョンに基づく採択基準に沿った「セールス・マッチング事業」の支援企業の発掘に向け、各県の支援専門家との連携や金融機関等が主催する展示会や商談会等への参加に取り組む必要がある。
2. 車を考える会では、自動運転化（IoT・AI）・コネクテッド・EV化を見据え、自動車完成車メーカー及び、Tier1 企業 3 社に対する地場企業のプレゼンの場をつくと共に、大学等研究機関と地場企業との具体的なマッチング成果を出すため、企業発掘の取組み強化を行う必要がある。
3. 航空機産業の拡大に向けて、海外展示会等を通じた国内外企業とのネットワーク構築、他の支援機関と連携した継続的な支援が行える体制の構築等を行いながら、東北域内企業と共に大手航空機関連企業、大学等研究機関とのマッチング強化に取り組む必要がある。
4. 2020 年東北・新潟の情報発信拠点事業「東北ハウス」への事業協力については、東北の中小企業が引き続き円滑かつ付加価値の高い販売活動が行えるよう、「基本方針」のもと必要な事業協力を行う必要がある。

6. 総会の開催

(1) 第8回通常総会（2019年5月22日）

会員97名（委任状含）の出席を得て開催した。

向田会長による挨拶後、第1号～第3号議案を審議し、いずれも満場一致で可決、承認された。

向田会長は挨拶で、2019年度を「2016年～2020年度の5年間という活動期間の仕上げに向けた1年間」と位置付けた。

続いて、（一社）日本航空宇宙工業会（SJAC）調査部部長の平上雄一氏を講師に迎え、「日本の航空機産業の現状－クラスターへの期待と支援－」をテーマに記念講演を行った。

講演では、「日本の航空機産業の現状と課題、日本の中小企業集合体に期待されること」についてお話しがあり、講演後には参加者から多くの質問が出るなど、非常に盛況なものとなった。

【議案】

第1号議案：第7回通常総会後の役員補充選任承認の件

第2号議案：2018年度事業報告並びに決算の件

第3号議案：2019年度事業計画並びに予算の件

【記念講演】

講演者：一般社団法人 日本航空宇宙工業会（SJAC）

調査部 部長 平上 雄一氏

内容：「日本の航空機産業の現状－クラスターへの期待と支援－」



向田会長による挨拶



記念講演

7. 広報活動

(1) WEB 媒体の活用

ホームページ、メールマガジン、ソーシャルメディアを活用し、効果的かつ機動的な情報発信に努めた。

支援採択に伴うプレスリリースに努めた結果、新聞掲載は 12 件となった。

① メールマガジンの配信

月 2 回の定期配信および号外で、当センターや協力団体からの事業案内などの各種情報等を配信した。

(2) 各県支援専門家との情報交換会開催

東経連の新ビジョンに基づく支援基準に沿った事業の発掘のためには、各県の支援専門家（事業化コーディネーター）の支援・協力は欠かせないことから、2019 年度は 10 月に福島県・新潟県、11 月に秋田県・山形県にて情報交換会を開催した。（※2018 年度は岩手県と青森県で開催）

ここで得られた知見や情報を基に、さらには地方銀行との連携等により、企業訪問活動を行い採択基準に沿った事業発掘に努めた。

(3) 地方銀行（スポンサー）への訪問・情報交換

東経連の新ビジョンの推進に当たって重要な存在である金融機関、とりわけ地元企業の身近な存在である地方銀行（スポンサー）との連携をさらに深めるための訪問活動を積極的に行い、当センター事業に関する情報提供もを行いながら情報交換に努めた。

(4) 当センター事業の周知活動（展示会等への出展あるいは協力）

① 支援事業説明会への参加

- 1) 2019 おうしゅう地域産業交流会（2019 年 5 月 14 日：岩手県奥州市）
- 2) 横手市支援事業説明会（2019 年 6 月 27 日：秋田県横手市）

② 『アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー（EOY）2019 Japan 東北地区大会』への後援（2019 年 10 月 9 日）

活躍する起業家の姿をロールモデルとして紹介し、後に続くアントレプレナーの輩出支援を目的に、アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー東北地区大会実行委員会が主催する事業に後援した。東経連からは、株式会社イーアールアイおよび株式会社ベアレン醸造所を事務局に紹介し、受賞につながった。

③ 『ビジネスマッチ東北 2019』への共催（2019年11月7日）

東北地域におけるビジネスマッチングの創出を目的に、（一社）東北ニュービジネス協議会、（一社）東北地区信用金庫協会、東経連との共催により実施した。

当センターは、東経連と連携して国内バイヤー1社を招聘し、東北企業のマッチングの促進に寄与した。また会場内にブースを設け、次世代放射光計画の紹介や「会長島耕作」の等身大ポップなどを使って ILC の展示を行った。

④ 『(株) I H I 東北繋がる絆祭』への出展（2019年12月13日～14日）

東北地域での活動や取組みをアピールすることを目的に、東北6県の各県自治体が、（株）I H I 本社で行われた「東北繋がる絆祭」において、東北6県の各県自治体が観光・地域製品のブースの出展を行った。

当センターは、ILC についての P R ならびに東北ハウスのイベントの告知を行い、来場者へ周知を図った。

以 上